２０１６年（平成２８年）１１月６日　日曜日

東奥日報新聞　１１面　掲載

山田高、野辺西圧倒

高校サッカー県大会きょう決勝

第95回全国高校サッカー選手権県大会は5日、青森市の県総合運動公園で準決勝2試合を行い、青森山田と八学光星が決勝に進んだ。青森山田は20年連続、八学光星は2年連続の決勝進出。（山口拓郎、斎藤義隆）

青森山田は前半32分、MF郷家のヘディングシュートで先制。後半16分、DF橋本のクロスに郷家が頭で合わせ2点目を挙げると、チームは勢いに乗り、その後も3点を追加。野辺地西を突き放した。

八学光星は開始早々、PKを相手GKの好セーブに阻まれたが、前半13分にMF坂井が先制。後半32分にDF齋藤、同34分にMF吉田がそれぞれ追加点を奪った。三本木農は後半に1点を返したが及ばなかった。

決勝は、6日正午から県総合運動公園で行う。

光星、三農を破る

▽準決勝
青森山田 5（1-0 4-0）野辺地西
▽得点者【青】郷家2、堀、三国、【三】佐々木
八学光星 3（2-1 1-0）1 三本木農
▽得点者【八】坂井、齋藤、吉田

波に乗る2年生MF

○…青森山田は2年生のMF郷家が2得点と活躍した。準々決勝でも5得点とゴールを量産し、今大会は絶好調。黒田監督も「とても調子が良い。きちんと役割を果たしてくれている」と手放しで褒める。

宮城県多賀城市出身で昨年の全国選手権も登録メンバー入り。チームが敗退した準決勝では、先輩が涙を流す姿をベンチ脇で目に焼き付け「（目標の全国優勝へ）やってやろうという思いが一段と強くなった」。全国大会切符をかけた決勝は「前半の立ち上がりから得点を狙いたい」と序盤からエンジン全開で臨む。

泥くさく、何が何でも

○…2年連続で決勝進出を決めた八学光星。主将のMF川口は「泥くさくていい。何が何でも決勝にいって青森山田とやるぞ、とみんなで話していたので、ひとまず勝てて良かった」とほっとした様子だった。

雨でピッチが滑ったため、細かくパスをつないで得点を狙う本来の持ち味は出せなかったが、終始足を止めずカウンターから相手ゴールに迫った。

畑中監督は「個々の力は昨年のチームより劣るかもしれない。だが、全員で走り、一丸で戦うのが今年の強み」と話す。決勝の相手は大会20連覇が懸かる強豪だが「ひるまず戦いたい」と監督は強気だった。

【準決勝・三本木農―八学光星】前半13分、八学光星のMF坂井㊧がゴール正面から敵陣へ切り込み先制

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです